

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none">生徒の学習意欲を高め、学習内容の理解を深めることにより、確かな学力を身につけさせる。ビジネスに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるとともに、生徒の多様な個性を伸長させる。検定や資格取得の指導を充実させ、進路実現に役立てる。教科指導をとおして、生徒自らが「学びたい」と思えるような魅力ある学校づくりを目指す。模擬株式会社の運営や、量販店での現場実習ならびに企業・地域の商店におけるインターンシップなど、実践的体験学習の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none">教務部と各教科主任が連携し、取り組み内容についての共通理解を図る。各教科において互見授業を実施し、他教科の教員も参加する。教科部会において、学習指導に関する研究を行う。生徒が、学習に関して、わからないことや他の意見・考えを友達同士で教え合う「生徒学び合い週間」を定め、学び合いを促進する。生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。分析結果は教務部でとりまとめる。結果内容については教科部会で検討し、今後の学習指導の改善に資する。検定・資格の取得目標をしっかりと持たせるとともに、補習授業を実施するなど指導の徹底を図る。「専門技術者等特別講師招聘事業」により、地域で活躍する専門家を招聘し、「生き方」、「職業観」、「専門的知識」について学ぶ。体系的な販売体験学習として、学校デパート形式による「模擬株式会社「TOMI SHOP」」に取り組む。「現場実習」「インターンシップ」により、社会の変化に対応した就業体験学習を行う。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none">商業教育や交通安全・IT・性教育・薬物乱用防止等の講話の中で社会人になるためのルールやマナーの遵守、挨拶、礼儀等の基本的な態度を身に付けさせるとともに、規範意識の醸成を図り、いのちを守り、お互いを思いやる態度を身に付けさせる。生徒全員が、学校における充実した教育活動に取り組めるよう、いじめの未然防止、早期発見を図り、いじめを認知した場合には迅速かつ適切に対応できるよう、いじめ対策委員会を組織し、保護者や地域との連携を図りながら対応できるようにする。健康な生活のできる人間をめざしている学校保健の目的を達成するために、自ら健康を考える意識と態度を育成する。生徒の健康・栄養指導の推進を図るとともに、食堂（2階）利用の正しい理解と態度を養う。また、富商会館（1階）の適切な維持運営を行う。
		計画	<ul style="list-style-type: none">挨拶の大切さと意義を十分理解して、儀礼的ではない自然に出てくる挨拶を身に付けさせる。月1回の頭髪服装検査を実施し、きまりや基準のもつ本質を理解させ端正な頭髪と服装を目指す。交通安全・IT・性教育・薬物乱用防止講話や、さわやか運動などを通して、ルールやマナー、規範意識の向上を目指す。富山商業高校いじめ防止基本方針に則り、いじめに対する生徒・教職員・保護者・地域の意識統一を図り、いじめの無い学校生活を目指す。定期健康診断、体力測定を適切に計画し実施する。対象者の罹患歴及び予防接種歴を確認し、未罹患かつ未接種の者に対し、

項 目		目標・方針及び計画	
2	学校生活 重点8		<p>勸奨を行う。特に、麻しん（はしか）予防接種の未接種者に対する積極的勸奨を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>事故発生率を減らすための危険予知力や回避能力を育てたり、冬季休業の前には1学年対象にAEDや応急処置の講習会を実施する。</u> ・生徒委員会活動の充実に努め、成果を高める。 ・保健だよりの内容を工夫し、生徒の興味関心を深める。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自己実現のために、生徒が学校活動を通じて自己理解を深め、自己受容を実現する中で、進路の獲得を目指す。 ・学校全体での組織的、計画的かつ効率的なキャリア教育を行う進路指導体制を確立する。
	重点4① 重点4②	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自己理解を深め自己受容を実現する中、自己の適性に合った進路選択ができ、かつ満足できるよう進路情報等の提供を機会あるごとに行い、進路意識の向上を図る。</u> ・<u>受験に必要な教科科目の学習、小論文指導の方針、面接の指導方法等について教職員間で共通理解を図り、教職員全体で協力し、より効果的、効率的な指導を行う。</u> ・就職採用試験についても、同様の受験指導を行う。 ・コミュニケーション能力の育成に努める。
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や部活動を通し、自律的・自主的な生活態度を養う。 ・豊かな人間性を身に付け、社会の一員として強く生きていくことのできる「人」を育てる。 ・読書への関心・意欲を高め、読書の習慣化を推進する。 ・図書館行事のさらなる充実に努め、学校における文化・教養の場としての役割を担う。
	重点2 重点7① 重点7②	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の役員を中心に、行事の運営委員会やリーダー研修会を開催し、生徒の企画力・指導力を養うとともに、円滑な行事運営を目指す。 ・<u>部活動指導上の諸問題について検討し、競技力の向上や充実した部活動の運営を目指す。</u> ・<u>図書館内外の展示に工夫を凝らし、図書館に入りたくくなるような雰囲気づくりに努める。</u> ・授業での図書館利用が円滑に行われるように、図書資料を充実させる。また、教科との連携を密にする。 ・図書館主催行事の日程、内容を工夫し、生徒が興味関心をもって参加できるよう企画する。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を活性化することにより、家庭と学校の連携を今まで以上に強め、学校教育に対する共通理解をより深いものにする。
	重点9① 重点9②	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの定期総会・各事業の内容を、より魅力あるものに改善する。 ・PTA役員会やPTA行事の<u>日時設定を工夫し</u>、保護者が参加しやすい環境を整える。 ・保護者や生徒へのアンケート結果を踏まえてPTA会員全体に関わる行事の内容を企画立案し、<u>満足度を高める。</u>

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現 状	・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組み、確かな学力を身に付けさせることが必要である。	
達成目標	(結果目標) ①指導力の向上を意識した授業改善	(結果目標) ②学習意欲の向上
	(行動目標) 他の教員の授業を、年間2回以上参観する。生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度80%以上	(行動目標) 生徒間で、学び合い教え合いを各自10回以上行う。
方 策	・互見授業週間(年2回)を定め、その間に他の教員の授業を2回以上参観する。 ・参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。 ・授業実施者は、参観者の感想・助言を参考に授業改善に取り組む。	・生徒が、学習に関して、わからないことや他の意見・考えを友達同士で教え合う「生徒学び合い週間」(年2回)を定め、期間中には各自10回以上学び合い活動を行わせる。 ・各期間後に学び合いシートを提出させる。

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全員部活動制である。 ・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は全国大会出場者が175名(21%)、北信越大会出場者が353名(42%)と昨年度の達成目標を達成できた。 ・平成28年度から部活動個人目標カードを用いて各個人の目標を立てさせている。年度末の目標達成度は63%で目標を達成できた。全国大会・北信越大会出場者が増加した結果だと思われる。	
達成目標	①部活動の個人目標達成度 (個人目標達成者数÷全校生徒数×100)	②全国大会・北信越大会出場生徒の割合 (大会出場者の延べ人数÷全校生徒数×100)
	60%以上	全国15%以上 北信越40%以上
方 策	・3年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策、結果目標が達成できたか。次年度に向けて反省等を記入させ、選手の意識を高める。 ・部活動の一層の活性化を図るため、各部におけるトレーニング講習会や技術講習会の充実を目指す。特に競技力向上に努める。 ・ストレス無く部活動を行うために、部活動の環境整備に努める。	

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学校生活
重点課題	「富山商業高校いじめ防止基本方針」によるいじめに対する意識の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・集団に溶け込めず、孤立する生徒が少なからず見られる。 ・部活動、学年、学科、出身中学等様々な要素を含みながら、程度の差はあるものの、様々な形態でトラブルが発生している。 ・悪ふざけや悪戯が人間関係を壊したり、人を傷つけたりすることに気付いていない生徒がいる。 ・スマートフォンの不適切な使用からトラブルを起こす生徒がいる。また、毎年、ネットパトロールから、生徒の不適切な書き込み等の連絡がある。
達成目標	「富山商業高校いじめ防止基本方針」によるいじめ撲滅 いじめに関するアンケートで「いじめに関わっていない」と答えた生徒の割合100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回行われる全校集会（頭髪服装検査）の折にいじめ防止について呼びかける。 ・各種講話をおこない、互いを尊重する気持ちや、いのちを守る態度を身につけることが、いじめの無い学校生活を築くことを理解させる。また、スマートフォンの不適切な使用事例を紹介し、ネットいじめの防止にも努める。 ・各学期末にいじめに関するアンケートを行い、いじめ防止の意識を喚起する。

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、能力に合った進路選択を行わせる。 ・職業観・勤労観を身に付けさせ、社会状況の変化に対応した進路指導を行う。 ・小論文を系統立てて指導し、小論文記述力を高める。 ・進路指導の組織的・計画的な取り組みを通して、効果的な進路支援策の実施。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観・勤労観に関する意識が希薄な生徒に関して、進路選択の遅れがみられる。 ・自己理解ができていない生徒には、安易な進路選択をしてしまう場合が見られる。 ・昨今、求人数が増加し、就職希望の生徒には選択の幅が広がっているが、一方で、自己理解が深まっていない場合に、憧れと自己の実力が見合わないままに進路選択を行い、進路先において苦慮する可能性がある。 	
達成目標	①小論文指導受講の達成度	②生徒の進路満足度（卒業時）
	100%	98%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。 ・小論文を書くことに対して抵抗のある生徒に、抵抗を感じさせずに書くことができるようになる指導を目指す。 ・各学年、年間3回の小論文模試の前に、模試業者等に依頼して、外部より講師を招いて小論文講座を実施する。 ・語彙力向上を目指し日々のなかで新聞コラム等を活用した学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望や就職希望の如何を問わず、自己の将来を主体的に考えさせ、能力・適性にあった進路選択を行うよう指導する。 ・個人面接、ホームルーム、進路説明会を通じて、生徒の志望の実態を把握し、家庭との共通理解を図る。その際、生徒・保護者に適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。 ・進路意識の啓発やその実現を目指す目標に向かって努力する生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。 ・進学から就職、就職から進学といった志望変更が安易な形で行われることのないよう、生徒と十分に話し合い、生徒自身の考えを明確にし、また、保護者との連絡を緊密に行いミスマッチのない進路選択につなげる。

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —5—

重点項目	学習活動
重点課題	検定・資格取得の充実
現 状	<p><平成29年度 全商主催検定1級3種目合格者数> 74名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3種目 (41名) ・ 4種目 (14名) ・ 5種目 (12名) ・ 6種目 (5名) ・ 7種目 (1名) ・ 9種目 (1名)
達成目標	<p>全商主催の検定1級3種目合格者数</p> <p>90名以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定取得の達成目標をもたせることにより、生徒の学習意欲を喚起する。 ・ 基礎・基本の着実な定着を図るとともに、生徒の能力を最大限に伸ばすための学習指導体制を充実する。過去問の中で正答率の低い問題を重点箇所として解説する。 ・ 1月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —6—

重点項目	学習活動				
重点課題	「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通じた体験学習の充実				
現 状	仕入先研修体験学習や「模擬株式会社 TOMI SHOP」の運営を起業家教育や進路学習に役立てている。				
達成目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">①社会人基礎力「3つの能力/12の能力要素」</td> <td style="width: 50%;">②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度 (お客様・生徒)</td> </tr> <tr> <td>自己の3段階評価 A30%以上 B70%以上</td> <td>お客様 大変満足 of 割合75%以上 生徒 大変満足 of 割合90%以上</td> </tr> </table>	①社会人基礎力「3つの能力/12の能力要素」	②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度 (お客様・生徒)	自己の3段階評価 A30%以上 B70%以上	お客様 大変満足 of 割合75%以上 生徒 大変満足 of 割合90%以上
①社会人基礎力「3つの能力/12の能力要素」	②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度 (お客様・生徒)				
自己の3段階評価 A30%以上 B70%以上	お客様 大変満足 of 割合75%以上 生徒 大変満足 of 割合90%以上				
方 策	<p>(1) 模擬株式会社「TOMI SHOP」(起業家の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬株式会社を設立し、会社組織で店舗経営や販売活動を行う。 ・ 「株主総会」において営業報告、決算報告、利益処分を行う。 <p>(2) 「TOMI SHOP特別授業」の充実</p> <p>「TOMI SHOP特別授業」を実施し、「TOMI SHOP」に向けて必要な知識と心構えを生徒に理解させる。複数回の授業を実施し、生徒の変化を把握して取り組みに生かす。</p> <p>(3) 社会人基礎力自己評価「プログレスシート」</p> <p>「TOMI SHOP」の活動を通して「プログレスシート」を記入させ、社会人基礎力の意識付け、記録および振り返りを実施し、成長の確認を行う。</p> <p>(4) キャリアガイダンスの実施</p> <p>地元経済団体との連携により、勤労観、職業観を育成し、問題解決能力を育て、地域社会に貢献できる職業人の育成を目指すとともに、キャリア教育の充実を図る。</p>				

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —7—

重点項目	特別活動	
重点課題	読書への関心・意欲を高め、読書習慣をつけさせる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月平均の来館者数は、ここ数年来700人程度で推移している。雑誌の利用を中心に昼休みの来館者は増えてきている。それを維持するとともに、読書の動機付けとなる様々な工夫が必要である。 ・昨年度の生徒1人当たりの貸出図書冊数は年度末において2.5冊であったが、1冊も借りない生徒が過半数を占める。その生徒たちに対して利用を働きかけていきたい。 	
達成目標	①1冊以上借りた生徒の割合	②生徒1人当たりの貸出図書冊数
	70%（4月～1月）	2.5冊以上（4月～1月）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後なるべく早い時期に図書館利用オリエンテーションを実施し、生徒図書委員会を立ち上げる。 ・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望をより多く取り入れ、利用を促進する。 ・授業で図書館を利用された先生方に協力を得て、調べ学習用の蔵書の充実に努め、図書館の有用性を高める。 ・来館者の興味・関心に合わせ、おすすめ本の紹介などを積極的に行い、読書の推進を図る。 ・国語科や外部講師と連携し、読書感想文や小論文の書き方や新聞の活用の仕方について講座を開き、役立つ図書館をPRし、さらなる利用を図る。 	

平成30年度 富山商業高等学校アクションプラン —8—

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理下における災害発生状況の調査および事故防止の徹底を図る。 ・不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリングの充実を図る。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や顧問、担任、授業担当者等への注意喚起を行っているが、その趣旨が実際の行動に十分に反映されておらず、比率的には怪我の減少が見られるものの、発生件数自体はそれほど顕著な減少が見られない。 ・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒が後を絶たない。 	
達成目標	①事故発生率の減少	②次年度への繰越し件数0
	9.0%以内（昨年度9.6%：80件）	0（昨年度2件）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止の徹底を図るため、実際の事故の例などを生徒に紹介し、事故の起こりやすい状況等について生徒や職員に注意喚起したい。また、保健だより等を活用し、生徒自身が危険を予知したり、回避したりできるように指導育成する。 ・不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等への対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。 	

重点項目	その他	
重点課題	P T A 活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 総会への出席率は、3 学年の進路説明会を同時開催することで50%を超える水準となっている。今後もより多くの会員に出席してもらうことで学校教育に対する理解を深める機会にしたい。 ・ 本校独自の P T A 事業として行っている P T A 視察研修や食堂利用体験の満足度は90%を超える水準で、参加者も増加している。また、2 年前より P T A による生徒への職業紹介講座を実施している。 	
達成目標	① P T A 定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度	② P T A 視察研修事業・ P T A による職業紹介講座の満足度
	70%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・3年生の進路説明会・学年別懇談会の同日実施を継続し、保護者の日程的な負担を軽減することで、保護者が参加しやすくなる環境を整える。 ・ P T A 定期総会時に学校長・進路指導部長・生徒指導部長による学校全体の概況説明を行い、学年別懇談会では各学年段階に応じた進路指導や生徒指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。 ・ P T A 視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。 また、2年生対象に行う P T A による職業紹介講座については、生徒の希望に沿う職業人を招聘し、なるべくミスマッチの無い講座選択を実現する。 ・ P T A 事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物とメール配信両方で行う。 ・ 機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。 	